

水稻の育苗について

①塩水選

※塩水選を行い、もみ枯細菌病、ばか苗病などの病粒を浮かせて除去することで、種子消毒の効果が上がります。

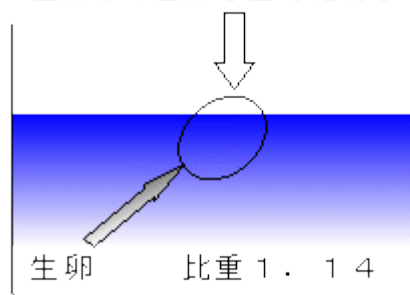
・食塩水または硫酸水を使います。使用量は下表の通りですが、おおまかに比重を知る目安として、新鮮な生卵を用いる方法もあります。

食塩または硫酸の使用量(水10リットル当たりkg)

食塩または硫酸の使用量 (水10リットル当たりkg)

種粒の種類 (無芒)	比重	食塩	硫酸
うるち	1.14	2.25	3.06
もち	1.11	1.69	2.23

上から見ると10円玉位の面積が水面から出て見える



・塩水選を行った粒は十分水洗いをして、塩分や肥料分を流して下さい。

②種子消毒

※下記2剤を混用して、必ず種子消毒を行って下さい。

・スミチオン乳剤 :シンガレセンチュウ(黒点米)の防除
1,000倍(10ミリℓ/水10ℓ)

・テクリードCフロアブル :いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病等、病気の防除 200倍(50ミリℓ/水10ℓ)

・水10ℓで種粒5kgが消毒できます。

・浸漬時間は24時間で、途中1~2回、攪拌します。

・廃液は池や川には流さないようにしましょう。

・消毒後の種粒は水洗いせずに水切りして下さい。

③浸種

※低めの温度でゆっくり行うことが大切です。

- ・水温 10℃～15℃くらいで3～4日間浸けます。(ヒノヒカリは5～6日)
- ・種籾がアメ色になり、胚が白く透けて見える頃が、浸種終了の目安です。
- ・浸種に必要な日数は、天候や気温、品種によって変わります。浸種中は、籾の状態に十分注意しましょう。
- ・水は毎日換える方がよいでしょう(酸素欠乏を防ぐため)。

④催 芽

- ・30～32℃の風呂の残り湯などに一晩程度(約 20 時間)浸漬し、「ハト胸」状態(芽が1mm 位でた状態)に芽出しをします。

⑤播種～育苗

○苗立枯病の予防

- ・発病する前の予防が重要です。
- ・資材(苗箱や育苗シート等)の消毒、苗土の消毒を行いましょ。
- ・薬剤は、使用基準をきちんと守り、安全に使用しましょ。

○播種

※薄播きを心がけましょ。

- ・下表に示した播種量(薄播き)では、覆土前の苗箱で土の見える割合が、籾よりも若干多くなります。
- ・移植予定日から育苗日数を逆算して、計画的な育苗を心がけましょ。
- ・播種前に十分かん水してから、播種しましょ。

○温度管理

- ・高温になると、苗が徒長しやすく、また、病気も発生しやすくなります。天候に合わせてトンネルの開閉、寒冷紗による遮光を行いましょ。

○水管理

- ・かん水は原則として午前中に行いますが、葉がしおれる場合には、適宜追加して下さい。
- ・かん水のしすぎは、根張りを悪くし、また、徒長苗となりやすいので、節水管理をしましょ。



移植前の稚苗の大きさは 15cm 程度が目安です。缶コーヒーぐらいの高さです。

[\(戻る\)](#)